

第106回薬剤師国家試験 総評

【難易度】★：低、★★：中、★★★：高

必須問題

物理	出題数	5	予想 平均	3	過去問 再出題	0	難易度	★★
	<p>昨年同様、難易度は少し高めであった。過去問ベースの問題も出題されたが、問1（日本薬局方一般試験法の装置）や問5（クーロン力）のように過去問では聞かれたことのない角度の問題が複数出題されたため、難易度は少し高めであった。</p>							
化学	出題数	5	予想 平均	3	過去問 再出題	0	難易度	★★
	<p>過去問を理解しておく必要がある問題が多く出題していたが、カルボニル化合物の問題（問7）のような新規の問われ方が見られたため少し難易度が高めであった。</p>							
生物	出題数	5	予想 平均	4	過去問 再出題	0	難易度	★
	<p>例年通りの難易度であり、比較的得点しやすい問題であった。5題中3題が図の問題であり、難易度の高い問題（問13）もあったが、残り2題は既出の問題を理解していれば、十分に正答できる。未出題の問題はなし。</p>							
衛生	出題数	10	予想 平均点	7	過去問 再出題	0	難易度	★★
	<p>健康分野5問、環境分野5問の出題である。全体を通して、過去問を理解していれば十分に正答できる問題が多くみられた。新型コロナウイルス感染症を視野に入れた問題（問25）も出題された。</p>							
薬理	出題数	15	予想 平均	13	過去問 再出題	0	難易度	★
	<p>例年通り（105回を除く）の難易度であり、正答しやすい問題が多い印象。ただ、文章の読解力が求められる問題（問26）や、80回の構造を絡めた過去問からの派生（問40）などもあり、作用機序を暗記するだけでなく応用力が必要な問題も見受けられた。</p>							
薬剤	出題数	15	予想 平均	11	過去問 再出題	0	難易度	★★
	<p>全体を通して、難易度は例年通りであり、内容を理解していれば正答できるようになっている。また、105回同様に図やグラフ（問49、50、52、54、55）に関連する問題が多数出題されている。図やグラフは製剤の特徴など考えれば解けるようになっており、良問であった。</p>							
病態・薬物治療	出題数	15	予想 平均	12	過去問 再出題	0	難易度	★★
	<p>問われている内容は易しいが、聞き方を変えて問いている問題が数問（問56、問57）見られた。遅発性ジスキネジア（問58）、続発性副甲状腺機能低下症（問60）、動揺病（問64）と今まで治療分野で未出題だった疾患が散見された。また、新コアカリキュラムを意識して治療分野で甘草の副作用（問68）が問われた。</p>							

第 106 回薬剤師国家試験 総評

法規・制度・倫理	出題数	10	予想 平均	8	過去問 再出題	0	難易度	★
	<p>難易度は例年通り平易であり、基本的な知識を問うものが多かった。過去問の演習をしておけば、正解を導き出せる傾向にあった。例えば、今回の問 71 でリスボン宣言について問われているが、102 回の問 79 を学習しておけば、容易に正解することが考えられる。従って、過去問の内容をきちんと学習しておくことが重要である。</p>							
実務	出題数	10	予想 平均	8	過去問 再出題	0	難易度	★
	<p>難易度は昨年と同様、平易であり、基本的な知識を問う問題が多くみられた。また出題範囲については、問 84、87、89 など例年通り科目の垣根を超えた法規、薬剤、衛生に関わる出題も散見される。</p>							

第 106 回薬剤師国家試験 総評

一般問題（薬学理論問題）

物理	出題数	10	予想 平均	4	過去問 再出題	0	難易度	★★★
	難易度が高めであった。過去問類似で比較的得点しやすい問題（問 92：定量）も一部あったが、難易度の高い日本薬局方の問題が多く、今までの過去問とは切り口が違う問題（問 95：アミノ酸など）や、目新しい問題（問 100：ラングミュアの吸着等温式など）が多数出題されたため解答が困難だったと考えられる。							
化学	出題数	10	予想 平均	4	過去問 再出題	0	難易度	★★
	主要な反応を問う問題は少なく、出題傾向が例年とは異なっていた。生体内反応や医薬品の化学が今後も出題が増えるのではと考えられる。また生薬では 100 回に出題された写真での問い方が再び見られた。							
生物	出題数	10	予想 平均	5	過去問 再出題	0	難易度	★★
	難易度はやや高め。文章で出題された問題は過去問レベルもしくは過去問の応用であったため、いかに過去に出題された問題を正解できるかで、得点に差が付くと考えられる。図を使用した問題は 2 問（問 111、問 114）出題され、初めて出題された内容であり、正答を導くのが難しかったと考えられる。実験データから考察させる問題は 2 問（問 113、問 116）出題されたが、実験方法やデータの読み取りが出来れば解答可能であった。また、生物で薬物（ワルファリン）の作用を問う問題が初めて出題された（問 126）。呼吸器系（問 110）やリアルタイム PCR 法（問 113）、消毒・滅菌・殺菌（問 118）など、新型コロナウイルス関連の時事的な範囲が出題された。消毒・滅菌・殺菌は旧コアカリの生物には記載されておらず、新コアカリに対応した出題範囲であった。							
衛生	出題数	20	予想 平均点	14	過去問 再出題	0	難易度	★★
	健康分野 10 問、環境分野 10 問の出題である。例年と比較すると正答しやすい問題が多かった。図表（問 119、問 122、問 128、）や構造式（問 129、問 134）を使用した問題は例年よりも少ない傾向であった。新傾向問題（問 119）も比較的少なく、全体的に過去問を理解しておけば解ける問題が多い。							
薬理	出題数	15	予想 平均	12	過去問 再出題	0	難易度	★
	例年通り、初出題の受容体（問 151）や薬物（問 152、162、163）はあるものの、過去問の知識があれば消去法で正答できる難易度であった。話題の抗ウイルス薬（問 169）や病態・薬物治療との連問が過去最多の 4 セット出題され、より現場を意識した問題構成となっていた。							

第 106 回薬剤師国家試験 総評

薬剤	出題数	15	予想 平均	10	過去問 再出題	0	難易度	★★
	<p>[薬物動態学]</p> <p>難易度や出題傾向は例年通りであり、過去問を理解していれば解ける問題が多い。 また、新傾向として、問 171（薬物の胎児への移行について）があげられる。</p> <p>[製剤学]</p> <p>グラフや表に関する問題（問 177、178、179、183）は 105 回同様に多く、問題の内容を理解して、解かなければならない。また、問 183 は新傾向であり、製剤試験法が適合しているかどうかを判断させる問題であった。</p>							
病態・薬物治療	出題数	15	予想 平均	9	過去問 再出題	0	難易度	★★★
	<p>例年通り、難易度が高めであり、病態の知識を理解していなければ解けない問題が多くみられた。また、必須問題同様、新コアカリキュラムを意識して治療分野で漢方（問 191）や遺伝子の問題（問 192、問 195）が出題された。</p>							
法規・制度・倫理	出題数	10	予想 平均	7	過去問 再出題	0	難易度	★
	<p>難易度は例年通り、平易で得点しやすい傾向だった。過去問そのままの再出題はないが、過去に出題された文章がそのまま出題された問題もある。例えば、問 146 は、94-108、97-141、100-141 を学習していれば、容易に正解できる。従って、過去問演習で、法律や制度、コミュニケーション等に関するポイントを把握しておくことが、法規で得点を稼ぐ上で必要となる。</p>							

第 106 回薬剤師国家試験 総評

一般問題（薬学実践問題）

物理＋【実務】	出題数	10	予想 平均	6	過去問 再出題	0	難易度	★★
	<p>難易度の易しい過去問レベルの問題や改変問題（問 198：放射性核種、問 202：MRI）が出題されたほか、実務も解答しやすい問題が多く出題され、全体的に点数に繋がりがやすかったと考えられる。しかし、図を使った妊娠検査薬の問題（問 196：イムノクロマトグラフィー）への対応が求められたり、新傾向の問題（問 201：AED における計算問題）も出題されていた。これらは臨床を意識した問題と考えられるため、今後も臨床に繋がる内容には気を配る必要があると考えられる。</p>							
化学＋【実務】	出題数	10	予想 平均	4	過去問 再出題	0	難易度	★★
	<p>全体的に過去問の出題傾向を踏襲した問題が多かった。医薬品名から構造、基本骨格、性質を読み取る問題（問 209）や受容体と内因性リガンドとの相互作用から、該当する医薬品の相互作用を解答する問題（問 213）、酵素と相互作用する官能基から医薬品の構造を読み解く問題など、過去問の知識を応用して解答する問題となっていた。今後は過去問の内容を十分把握したうえで、医薬品構造から医薬品名や性質、医薬品名から構造を判断するなどの応用力を身につける必要がある。</p>							
生物＋【実務】	出題数	10	予想 平均	5	過去問 再出題	0	難易度	★★
	<p>難易度はやや高め。病気の状態を問う問題（問 217）や薬物を服用後の生体内の変化を問う問題（問 218）、薬物の作用機序を問う問題（問 221）など今までにない出題内容で、疾患の知識が必要な問題であった。図の問題が 2 題（問 221 と問 223）出題されたが、文章を読み取る力が必要な問題であった（問 223）。疾患や薬の作用機序を問うような問題が今後も出題されると考えられるため、より医療科目との繋がりを意識して勉強する必要がある。</p>							
衛生＋【実務】	出題数	20	予想 平均	11	過去問 再出題	0	難易度	★★
	<p>健康分野「4 題」環境分野「6 題」の出題であった（実務 10 問は除く）。過去問を類似させた問題が多く出題されたため、105 回と比較してやや易しい傾向になったと思われる。また、問 229 や問 238 のように、薬剤や生物で出題されうる内容が出ており、他科目との繋がりを見据えた勉強が必要である。</p>							

第 106 回薬剤師国家試験 総評

薬理＋【実務】	出題数	20	予想 平均	14	過去問 再出題	0	難易度	★★
	<p>難易度はやや平易であった。近年の出題傾向として、(実務)で治療薬を選択させ(薬理)でその作用機序を問う形成が多かった。今年はその形式は1セットのみであり、(実務)がやや難だとしても(薬理)で得点することができると考えられる。レストレスレッグス症候群(問248)や全身性強皮症(問262)など、初出題となる疾患が問われたが薬の作用機序をおさえれば正答できる難易度であった。</p>							
薬剤＋【実務】	出題数	20	予想 平均	10	過去問 再出題	0	難易度	★★★★
	<p>105回同様の難易である。昨年同様に、実践的な知識が問われる問題(授乳婦への指導や医師への情報提供など)が数多く出題されている。また、製剤の特性を理解していなければ解けない問題も見受けられた。</p>							
病態・薬物治療＋【実務】	出題数	20	予想 平均	11	過去問 再出題	0	難易度	★★★★
	<p>105回国試より、少し難易度が上昇した。問288～問289は心電図を読み取る問題、問297は感染性心内膜炎、問303のがん悪液質が特に学生が苦戦した問題であると考えられる。また、問296は薬剤感受性試験を元に抗菌薬を選ばず問題が出題されており、現場を意識した内容であった。</p>							
法規・制度・倫理＋【実務】	出題数	20	予想 平均	15	過去問 再出題	0	難易度	★★
	<p>難易度は104回、105回と同様である。パイオ後続品、臨床研究法等に関する定番ではない出題が散見された。モノクローナル抗体の副作用軽減のための処置や処方内容から疑義照会すべき薬剤を選ばせる等の現場を意識した出題もみられた。また、実務で学習する投与日数制限や消毒薬に関する出題も見られ、実務の過去問をしっかりと学習しておくことも大切であると考えられる。ただ、定番の出題も多く、全体としてはきちんと得点できる内容だった。</p>							
実務	出題数	20	予想 平均	15	過去問 再出題	0	難易度	★★
	<p>105回同様の難易である。過去問の内容をしっかりと学習できていれば、得点できる問題が散見された。抗悪性腫瘍薬の注射剤の調製に関する実務実習での知識を生かす問題の出題も見られた。また、計算問題も4題出題されているが、そのうち半数は特別な公式などを知っている必要はなく、文脈から流れを追っていけば解答できるものであった。今後の対策として全体的に幅広い知識や読解力を身に付けることを意識しながら学習する必要がある。</p>							

第 106 回薬剤師国家試験 総評

全体分析と今後の展望（対策）

1) 必須問題

- ・第 105 回国試同様、全体を通して難易度が高めの問題が散見され、少し難易度は高めであった。しかし、薬理に関しては難易度が少し下がったため、正答しやすかったと考えられる。
- ・新傾向としてはイラストを見てターゲティング製剤を選ばせる問題（問 55：薬剤）や図中に日本語が書かれており、英語で解答させる問題（問 69：病態・薬物治療）などが出題された。
- ・改訂コアカリに準じ、治療分野で甘草の副作用（問 68）が問われた。

2) 理論問題

- ・例年通り、難易度は高めであった。衛生、薬理、法規は得点しやすい問題が比較的多かった。化学、生物に関してはやや難化傾向にあった。
- ・生物に関しては呼吸器系（問 110）やリアルタイム PCR 法（問 113）、消毒・滅菌・殺菌（問 118）など新型コロナウイルス関連の時事的な範囲が出題された。
- ・第 105 回国試同様、問 124～問 126 で衛生、化学、生物の 3 連問が出題され、ビタミン K に関する内容であった。
- ・薬理、病態・薬物治療との連問が過去最多の 4 セット出題され、より現場を意識した内容であった。また、その連問がまばらに配置されたことで解きにくさを感じた受験生もいたと考えられる。

3) 実践問題

- ・実践問題は第 105 回国試と比較すると同等の難易度であった。しかし、実践問題の実務部分の患者背景として、処方薬の多さ、複数の疾患を合併しているなど、より現場を意識した内容が出題され、総合的な知識が必要であった。
- ・問 204（物理）に関しては発がん性物質混入により、回収されたラニチジン関連の問題であり、時事的な範囲が実践問題でも出題された。